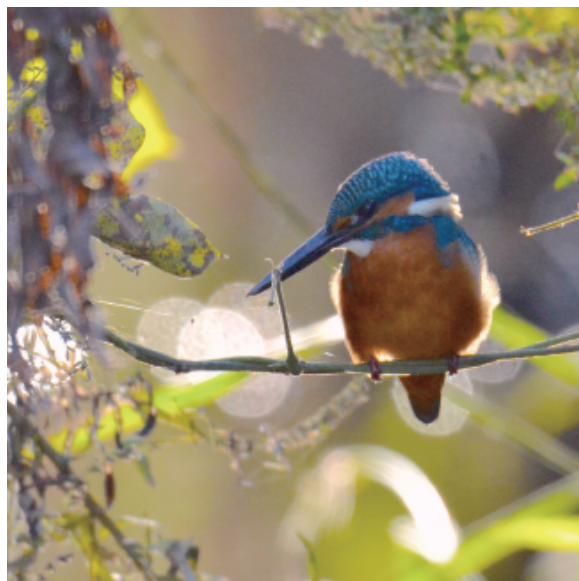


ブリーフレーター Brief Letter 57

人と地域と医療を繋ぐ 秋本病院の情報誌



小戸公園のメジロ

ふくおか花鳥虫月 撮影/木下智弘(福岡市西区)

室見川のカワセミ

特集 より良い病院づくりのための「病院機能評価」

千一夜医話

秋本病院理事長・院長
秋本 亮一

- ホームページのブログから
- 給食室より/桜豆乳プリン
- スタッフの横顔



医療法人 AGIH
秋本病院

[救急告示病院] [日本医療機能評価機構認定病院]
消化器内視鏡センター/健診センター/緩和ケアセンター

SHOP 散策

自然食品の店 ファーム



▲いつもニコニコ笑顔が絶えない
藤本社長(写真真ん中)

美味しく安全な食材がそろうお店

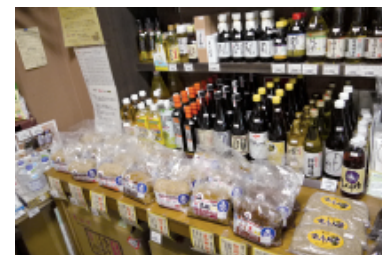
警固西交差点近くにある、農家風のどっしりとした大屋根が目立つ建物は、昨年 10 周年を迎えた自然食品の店「ファーム」。社長の藤本さんは「温故知新をモットーに、もっと美味しく、もっと安全安心の食材をお客様に提供したい」と熱く語ってくださいました。熊本逸品大使をなさっているので、先日お店の前を通ったときは“くまもん”が来店して大賑わいでした。

取材に伺った日は店頭で“熊本県湯前町”の有機栽培のもち米と“産山(うぶやま)の水”を使って、もちつき(11月～5月)。杵でつきたてのあんこ餅、よもぎ餅。最高でした。1階の店内は厳選された食材の宝庫で、近くにお住まいだった故菅原文太さんは農業家としても有名ですが、奥様とよくお店に来られたそうです。

取材者のお薦めは、12月～5月の遠赤外線じっくり焼いた石焼き芋。芋は“熊本県大津町”無農薬の紅はるか。夏のイチゴのかき氷は暑くなるのが待ち遠しいほどです。

2階はオーガニックレストラン(ランチのみ)で、熊本産の無農薬で香り豊かな新そば粉の手打ちそばが人気。つゆもしっかり出汁が効いて、醤油・味噌がそばの味を引き立てます。2階にある家具は、熊本産山の杉の太木で大工さんに手作りしてもらったそうです。

HPも充実していますよ(*^_^*)



◀▼1階の店内は、「あったら便利ではなく、なくてはならない店を作りたい!」の思いが伝わる品揃え



▲店頭のかまど炊きおにぎりも好評です



▲このスペースはランチのあと、手打ちそば教室(3月4月)家庭料理教室などにも使われています



◀「手打ち十割そばランチ」は1080円。なんと限定20食!

店舗情報

自然食品の店
ファーム
<http://www/farm-1.net>



住所：福岡市中央区警固 2-18-1
電話：092-716-9200(1階店舗 092-716-5700)
営業時間・定休日：
1F 自然食品の店「ファーム」(不定休)
平日 9:30～20:00 日祝 9:30～17:30
2F キッチン「ふあーむ」(日曜祝日定休)
11:30～16:30 ラストオーダー 15:30

★宅配もあり。
詳細はお問い合わせを。

編集後記



内外から、心痛むニュースが入り、やりきれない気持ちになることが多い今日この頃ですが、四季のある日本は春がやってきました。そして、この春で秋本病院は警固に移転して10年を機にブリーフレーターも心機一転、表紙のレイアウトなどが変わりました。表紙のテーマは「ふくおか花鳥虫月」。福岡市在住の木下智弘さん撮影の写真をシリーズでお楽しみください。因みに今号は室見川のカワセミ、と小戸公園の梅とメジロです。

2011年11月49号より、表紙に水彩画家宮本フ左さんの作品をご好意で使わせていただきました。繊細なタッチと驚くほどの観察力、ダイナミックな構図には、編集していて毎号わくわくしたものです。昨秋発行された画集(左写真)「一睡の夢」(長崎文献社)は、28枚の作品とそれにまつわるご自身のお話で綴る素敵な思い出絵本です。病院の待合室にも展示しています。

今日は今年初めての黄砂とか。皆さま、どうかご自愛なさって、日本の美しい春を満喫なさいますよう。(畑間 啓子)

秋本病院 ブリーフレーター No.57 2015年3月発行 発行者/秋本亮一 発行所/医療法人 AGIH 秋本病院 デザイン/有限会社 広告農場 編集/矢野 美恵子
Copyright 2009-2015 Akimoto Hospital All rights reserved.

医療法人 AGIH 秋本病院 福岡市中央区警固1-8-3
TEL:092-771-6361

●診療科目：外科(消化器外科)・内科・胃腸科・肛門科・心臓血管外科・整形外科・脳神経外科・放射線科
●外来診療受付：平日8:30～12:30/14:00～17:00 土曜8:30～12:00 ●休診日：日・祝

<http://www.akimoto-hospital.jp/>

秋本病院の理念

1. 専門医療を通じ、地域社会に貢献します。
2. 皆さまのご満足と安心のために、医療に関する十分な情報を提供します。
3. 質の高い心のこもった医療を続けるために、常に研鑽努力します。

より良い 病院づくりのための 「病院機能評価」

この度、秋本病院は
日本医療機能評価機構による「病院機能評価」で
4回目の認定を得ることができました。
今回は、この機会に当院の「病院機能評価」のこれまでや
この度の認定を振り返りたいと思います。



福岡市では先駆けの 認定病院

平成27年2月12日現在、全国8512病院のうち病院機能評価の認定を得ているのは2267病院（26・6％）です。福岡県で136病院、福岡市内では41病院です。
当院が最初に「病院機能評価」の認定を得たのは平成11年10月18日でした。その時のことが「ブリーフター」で紹介されています。記事の上で病院機能評価の説明、下段に15年前の院長のコメントがあります。



この時点では、認定を得ているのは全国で260病院、福岡県で24病院、福岡市ではわずか7病院でした。2回目の認定は平成17年でしたが、「ブリーフター」の「号外」として発行、紹介されています。

表面で病院機能評価の紹介、裏面に福岡市内で認定取得した病院一覧が載っています。平成17年で、38病院と、僅か5年で30近くの病院が認定を取得しています。



規模は小さな秋本病院ですが、病院機能評価では先駆けの中に入ります。冒頭にある今回の認定証の写真では、4回目認定として★が4つあります。

4度目の審査は 新たな評価項目も

審査は、事前に現況調査票と自己評価書を提出し、その後でサーベイヤと呼ばれる審査員の方による病院訪問審査で行われます。秋本病院には、3名のサーベイヤと1名のオブザーバー計4名が来院、2日間渡って審査が行われました。

今回は、大幅に審査基準が改訂されており、訪問審査で「ケアプロセス調査」が新たに加われました。ケアプロセスは、各病棟における典型的な症例を通じ、外来から入院、そして退院までの対応や、医療安全、感染制御面への取り組み等を総合的に現場で確認するものです。審査前には何度もカンファレンス・模擬審査を行い準備しました。

4度目の認定に 向けての取り組み

「今までに担当していない人で、プロジェクトを組もう」という院長の一声で、秋本病院4回目の病院機能評価認定プロジェクトがスタートしました。それは、訪問審査を受ける1年3ヶ月前でした。

そして、選ばれたのが写真の5人のメンバーです。

黒一点の能美診療情報管理室長がリーダーでした。訪問審査直前の院内新聞で、5人取材しました。

■能美リーダー「絶対に更新してみせる！そして、これを機にどんどん病院を変えてやる！これからの秋本病院を支えて行くのは私達だ！」

■久保田副部長（一番年長でキャリア



写真左から、入舟一般病棟主任看護師、林田一般病棟主任看護師、久保田看護部副部長兼緩和ケア病棟師長、荒木外来主任看護師、能美リーダー・診療情報管理室長

ア豊富）「職員一同が、機能評価を楽しもう！」
■林田主任「不安が一杯で、これいいのか悩み、悩み進めています。」
■入舟主任「人前で話すのが苦手で、訪問審査日が、先延ばしになって欲しい！」
■荒木主任「残り僅かな時間の中で、患者中心の医療、看護の提供を継続・改善していき、更に地域に貢献できるようスタッフ全員が一丸となって取り組む意識と環境を作って行きたい」

評価の仕方と今回の評価

機能評価を指数化(見えるカタチ)にしてみました。審査項目毎に、秋本病院の自己評価とサーベイヤによる評価は同じSABCの4段階です。秀でているSを4点、適切に行われているAを3点、一定の水準に達しているBを2点、一定の水準に達しているとは言えないCを1点として審査の領域別に数字化してみたのが表です。ちなみにC評価があると認定されません。4つある領域で、1領域と4領域は、自己とサーベイヤの評価がほぼ一致しています。一方、今回最も重要視されたケアプロセスの2領域と3領域では、サーベイヤ

評価が、自己評価よりも明らかに高い結果でした。自己満足すぎるのは問題ですが、自分を過小評価しすぎるのも問題です。今回の機能評価から、もう少し自分達に自信をもとう、と心がけています。

日本医療機能評価機構のホームページに、「医療機能評価とは、医療を見つめる第三者の目であり、認定病院は、より良い病院作りを目指して成長し続ける病院です」と書かれています。5年に一度の機能評価審査ですが、病院の現状を客観的に評価し、改善進化し続ける必要があることを改めて思いました。

自己評価とサーベイヤ評価の比較

領域	機能評価の大項目	直接評価の対象となる項目	領域別平均点	
			秋本病院の自己評価	サーベイヤの評価
1領域	患者中心の医療の推進	20項目	2.8	2.75
2領域	良質な医療の実践①	35項目	2.54	2.74
3領域	良質な医療の実践②	12項目	2.17	2.5
4領域	理念達成に向けた組織運営	18項目	3	3
平成26年機能評価			85項目 2.647	2.765

S：秀でている4点／A：適切に行われている4点／B：一定の水準に達している2点／C：一定の水準に達しているとは言えない1点

病院機能評価の効果と利点

- 1 現状の客観的把握
- 2 改善のきっかけづくり
- 3 効果的で具体的な改善目標の設定
- 4 職員の自覚と改善意欲の醸成
- 5 改善の方向の明示
- 6 認定による患者さまの信頼

千一夜医話

「仁」そして「医は仁術」



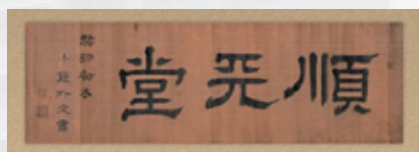
秋本病院 理事長・院長
あきもと りょういち
秋本 亮一

さて、新明解国語辞典(第5版)によると「仁術」とは、「損得を度外視し、奉仕的に治療することが期待される医道の称」とあり、さらに「最近では職業人としての意識が先に立ちすぎるため一部に『算術』という批評もある」と注釈されている。しかし、明

「仁」という言葉はありふれているが実はその意味は深い。「他人に対する親愛の情、優しさ」を意味しており、儒教における重要な「五常の徳」(仁・義・礼・智・信)のひとつとされる。日本では義と合わせて仁義と使われることが多いが、我々の世界では「医は仁術」という言葉がなじみ深い。「医は仁術」というと、私がまず頭に浮かぶのは山本周五郎の小説「赤ひげ診療譚」である。江戸中期の小石川療養所を舞台に、赤ひげこと医師・新出去定(にいできょじょう)を主人公とするヒューマンストーリーである。もう一人の長崎帰りの青年医師・保本登(やすもと のぼる)と江戸下町で病氣だけでなく様々な人助けをしていく話であった。映画にもなり三船敏郎、加山雄三が演じた「赤ひげ」が目につく。「仁術」を実践できた良い時代だったようだ。

とはいっても、医療従事者たるものはこの流れに流されてしまつてよいのであろうか。この道に進もうと決めたあの日思い出し、今、ふたたび「仁」。

私の母校「順天堂」の学是がこの「仁」で



解さんには申し訳ないが、今の日本の医療は、損得を度外視しては語れない状況になっている。よい医療には優秀な人材が必要、高額医療機器も必須、新薬も使いたい、良い環境で療養もして欲しい。そして安心と安全。得はなくてもせいぜい損をしない程度に、経済的に担保されたいと続けて行けない今のこの仕事である。世界に冠たる日本の公的医療保険制度は財政難で年々厳しくなるのだが、医療に従事する我々にも毎日の生活がある。そんなわけで、月末そして年度末に数字を連ねて実績を評価し、効率を考える。経済学では当たり前の手法が仁術の世界を席巻してしまつた。よい医療を提供するには、経済的に安定することが不可欠なのである。

ある。順天堂では「人なりて我在り、他を思いやり、慈しむ心。これすなわち『仁』とされている。私も順天堂でこの道を志したときから「仁」を肝に銘じているつもりである。今、ふたたび「仁」。医療に携わるすべての人々に思い起こしていただきたい言葉である。



東京御茶ノ水の順天堂病院



健診センターアンケート結果を受けて

がんの早期発見、生活習慣病予防の啓蒙から、ここ数年健診受診者の数が増え続けています。(グラフ参照)昨年夏、健診センター受診者への初めてのアンケート調査を実施しました。132名の方から回答いただきました。ありがとうございました。

性別では男性45%、女性が55%。年代では一番多かったのが30代40代でともに20%。20代から70歳以上まで幅広く受診されています。利用頻度は、実に72%の方が毎年受診されています。一方初めての方も20%いらっしゃいました。まず、秋本病院の健診センターを選んだ理由を尋ねたところ、一番が「会社、学校で指定されて」で33%、2番目が「自宅が近いから」11.2%以下、「以前から利用しているから」10.2%、「友人同僚上司に勧められて」8.3%、「勤務先が近いから」6.8%、スタッフが親切だから6.8%と続きました。下の表は、全ての回答者の選択理由と、初めて受診した方の選択理由をまとめたものです。その比率を比較すると、初めての方では「ご近所」「他人の勧め」「広告効果」が高いことがわかりました。

アンケートは31の質問に、5段階で答えていただくものでした。予約、案内書類、料金、検査の種類、オプション検査、院内の案内表示、受付、健診のスタッフの対応、待ち時間、検査技師、医師の対応、そして、満足度、次回受診の意向など多岐にわたっていました。詳しい回答数などは、当院のHPに掲載しています。

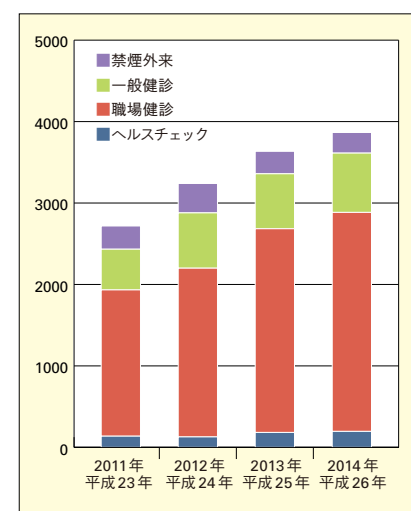
★今回のアンケートの回答者のご意見から、5ページに紹介しているように健診センターの検査着を新しくしました。

秋本病院の健診センターを選んだ理由

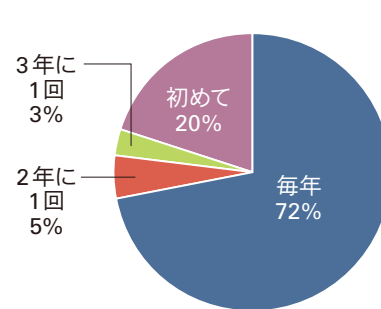
回答者	全体件数		初めての人	
	128人	構成比	24人	構成比
会社・学校で指定されて	66	32.20%	7	22.60%
ご近所(自宅・勤め)	37	18.00%	10	32.30%
病院関与度が高い	32	15.60%	0	0.00%
他人の勧め	19	9.30%	9	29.00%
好印象	45	22.00%	3	9.70%
広告効果	6	2.90%	2	6.50%
計	205	100%	31	100%

注：選択理由は複数回答可のため、人数と回答数は違っています。

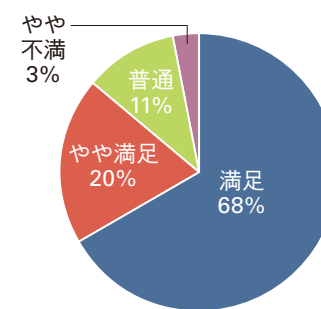
健診センター受診者実績



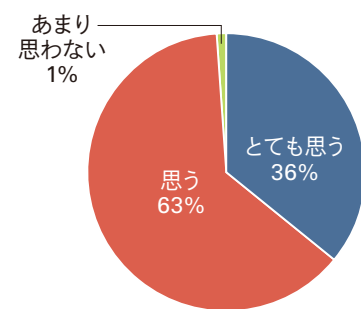
当健診センターの利用頻度



本日の健診は満足されましたか？



次回も当健診センターを利用したいと思いますか？





春の香りを感じながら美味しいおやつタイムを！ 「桜豆乳プリン」



管理栄養士 境 英里子



材料（プリン型 約4個分）

●豆乳プリン	●桜ゼリー
豆乳(成分無調整) … 450cc	水…………… 100cc
砂糖…………… 50g	砂糖…………… 5g
粉ゼラチン …… 3枚	色素(赤)…………… 少々
バニラエッセンス……………適量	粉ゼラチン…………… 1.5g (粉ゼラチンは水100ccでふやかしておく)
	塩漬けの桜…… 8～10枚

作り方

- ①鍋に豆乳・砂糖を入れ沸騰直前で火から下ろし、ゼラチンを振り入れ、よく混ぜて溶かす。
- ②①にバニラエッセンスを加え、茶こし等で型に流し入れる。冷蔵庫で2～3時間冷やし固める。
- ③豆乳プリンが固まってきたら、桜ゼリーを作る。鍋に塩漬きした桜の花、水100cc、砂糖を入れて火にかけ沸騰し始めたら火から外す。
- ④ゼラチンを加えたら色素で色を付け、鍋の底に冷水を当ててしっかり冷す。
- ⑤冷やしておいた豆乳プリンの上に④の桜ゼリーを入れ、開いた桜の花もお好みで沈める。桜ゼリーも固まったら出来上がり。

豆乳を使った口当たりの良い和風デザートです。今回は春を感じられる桜ゼリーを添えました。

豆乳の原料である大豆にはトリプシンインヒビターという物質が含まれています。この物質はインスリンを分泌するB細胞を増殖させるため、糖尿病の治療や予防効果が期待されているそうです。そのほかにも豆乳には大豆イソフラボンなど様々な栄養素が豊富にふくまれています。

豆乳プリンには桜ゼリーだけでなく、きな粉や黒蜜をかけるなどいろいろなアレンジで楽しめます。少ない材料で簡単に作れるので、食後のデザートやお子さまのおやつにぜひお試しください。



スタッフの横顔



優しい対応が評判
笑顔も素敵な新婚さん！

看護師 やまさき りか
山崎 理華

正看護師も結婚も一年目の笑顔が印象的で素敵です。職場では、看護師としての技術や知識を積み重ねるために、勉強真っ最中です。患者さまへの対応や接し方がとても優しく、私も見習わなければといつも考えさせられます。これからもステキな笑顔を保ち、頑張ってください。自宅では亀を飼っているそうなので、山崎さんを見かけたら聞いてみて下さい。

By 犬派



スタッフとも患者さまとも
コミュニケーションばっちり！

看護師 のむら あや
野村 綾

いつも明るく、笑顔がとても似合う女性です。コミュニケーションを取ることが上手く、「のむら子」の愛称で親しまれています。たまに、前髪を三つ編みにしていて、手の器用さ？！に驚き！！不器用な私にとって尊敬できる存在。

私も彼女を見習って女子力を上げなきゃ、と思います。

By 福北線



ホームページのブログから

このコーナーでは、当院のブログの中から、特に皆さんにご覧いただきたい記事をピックアップしてご紹介します。

2015年2月の「コンシェルジュブログ」より

健診センターの健診(検診)着が変わりました！

秋本病院の健診センターで昨年、受診してくださった方にアンケートをお願いしました。

ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。

貴重なご意見をたくさんいただいた中で、「よりよい病院をつくる会」(委員会)でまず取り組んだのが、「健診(検診)着をご入院の患者さまの病衣と区別して、クリーニング済の検査着に着替えて検査を受けていただきたい」でした。

各部署で検討を重ねた結果、右の写真のように決まりました。

★人間ドック受診の方は、ゆっくりしていただくお部屋の用意があります。



健診(検診)着



人間ドック受診着とガウン



モデルは、株式会社クレディアの秋本病院担当・下川さん

福岡県国民保護共同実働訓練に参加しました！

今年は、オウム真理教の「地下鉄サリン事件」から、20年にあたります。その節目に、国(内閣府)、福岡県、福岡市が共同で、「福岡市内の地下鉄にサリンが撒かれた」と想定した、大規模な共同実働訓練があり、秋本病院も救護班として参加しました。



(2015年1月20日 西日本新聞デジタル版から転載)



福岡市救急病院協会が用意した揃いのユニホームがお似合いな4人。左から畑地、松田、萩原、内村

訓練に参加した4人に感想をお願いしました。その一部を紹介します。

◆畑地緩和ケアセンター長

「訓練に参加して、『人は人のために誰もが一生懸命なのだ。』ということをつくづく感じました。医師は医師の領分を、看護師は看護師の領分を、そして全体をみて指示される方はその役割を…多くの方が一人の人間の命を救わんが為に持ち場に懸命になっていました。」

◆看護部緩和ケア松田主任看護師

「何百人もの人が一斉に被害にあい、様々な症状や、不安、恐怖を抱えている中、求められることは冷静さと判断力、なによりもチームワークだと感じました」

◆医事課萩原課長

「こんな大掛かりな訓練に参加するのは初めてで、打ち合わせの資料も分厚く緊張した面持ちでの参加でした。(中略)最初にやったのが、西体育館にクルマで着いて、走って救護所にむかう、“やらせ”の撮影でした」

◆看護部外来内村看護師

「私達救護班は、被災者の方を受け入れるため西区体育館へ掛けつけるという設定でした。(中略)トリアージ、応急処置を行いました。事前に役割分担を決めていたので、誘導、問診、診察と滞り無くできましたが、訓練でなかったらどうか？改めて訓練の必要性を感じ、大変勉強になる体験ができました。」